

議 長	局 長	主幹・係長	係

粕屋町議会 視察研修報告書

下記（別紙）のとおり、視察研修に参加しましたので、その内容について報告いたします。

粕屋町議会議長 末 若 憲 治 様

令和 8 年 8 月 15 日

粕 屋 町 議 会

総務建設常任委員会

（ 安 藤 和 寿 ）

報告事項

委 員 会 名	総務建設常任委員会
---------	-----------

【視察研修①】

日 時	令和 8 年 8 月 4 日
視 察 先	福井県坂井市
研 修 目 的 (テーマ)	ふるさと納税の取り組みについて
現状と課題	（研修目的を設定した背景（粕屋町の現状と課題）について記載） 粕屋町のふるさと納税の取り組みの現状と課題 町のふるさと納税事業・寄附金の使い道においては、主に子ども・福祉・文化スポーツ・協働のまちづくりに寄附時に使い道を選択できることに使われてきたが、近年多くの自治体が住民のアイデアを集約、多種多様な使い道の内容を内外に大きく PR を行い、寄付金額の増収に向けた取り組みを図っていることから、先進地と評価される坂井市の取り組みを視察、内容を参考にすることで、増収を図ることが課題である。

(研修内容を簡略にまとめ、議員個人として粕屋町に必要又は参考になると思われる点について記載)

概 要

坂井市と粕屋町を比べて遥かに納税受入額、返礼品事業社数、返礼品数を見比べてみても群を抜かれ、寄附金の使い道について寄附市民参画制度の内容は、坂井市から市外に移り住んだ人たちに対して故郷に残る両親や親類に対して将来の町の発展を期待したつながりを創出する目的から坂井市のファンを増やすプロモーションを首都圏関西圏などで実施、寄附者拡大に繋げている。現状の粕屋町の事業者数、返礼品数を坂井市の様に真似ることは非常に難しい。ポータルサイトの導入件数は粕屋町と比べて多くのサイトと契約をして納税を増やしている点もあるが、寄附金額増収に向けたものは、寄附金額の使い道（アイデア内容）を具体的に大きくPRしているところで違いがはっきりしている。

現状の粕屋町に必要なところは、まず、返礼品の新規開発から増収は難しいと判断、寄附金を如何に寄附してもらえるかを考える必要がある、多くの寄附者が集まる場所へ町内外を問わず具体的な寄附の使い道を持ってPRすることが必要だと思います。近隣自治体が一早く打ち出している将来のグローバル人材育成プログラムに企業も注目している使い道に賛同され寄附額の向上となっている。返礼品での寄附額獲得では、ふるさと納税に係る法律の成立により返礼品の返礼割合を3割以下、地場産品とすることとされている。このことから糟屋郡の様な小さな自治体がそれぞれ単独で事業を展開しているとは、返礼品の中身が返礼品を量産出来る大きな自治体と比べ1品当たりのコストの違いからブランド品とは別に、中身のお得感が無く寄附金を継続するリピーターの獲得は難しいと考える。総務省への請願、一市七町が一本化した返礼品が送れる体制（糟屋郡自治体への寄附額増収、事業者の利益向上が考えられること、糟屋郡の自治体は各自治体の独自の取り組み内容でPRすることで注目され寄附者の向上につながるのではないのか。現在は大きな自治体と比べ不利な状況と思う。

質 疑 応 答	(研修での自身その他の質疑応答内容(要点)を記載) 1, どの自治体も熊本地震を受けて今後のふるさと納税受額推移は減少傾向に向かうことが懸念されるが、受入額獲得に向けたプロモーション対策は考えられるかは、 回答：成り行きに任せて事業を進めたい。 2, コールセンターの費用対効果、活用の利点は 回答：寄附者に対してもアフターフォローで継続に繋がり非常に良い。
所 感	(研修で自身が感じたことや学んだことを、町にどのように活用できるかなどを記載) 粕屋町では現状の寄附額を踏まえ、予測される寄附額に対し上積みをもど様なプロモーションで獲得するか最重要と考え、インパクトの強い使い道の内容とプロモーション内容が重要と考える、寄附者獲得に向けた富裕層エリアへのPR展開など方向性を転換させるマーケティングの構築が重要課題と言える。

【視察研修②】

日 時	令和 8 年 8 月 5 日
視 察 先	滋賀県草津市
研 修 目 的 (テーマ)	民間事業者誘致事業（公園 PFI）について
現 状 と 課 題	（研修目的を設定した背景（粕屋町の現状と課題）について記載） 駕与丁公園の年間維持管理費用は物価高騰により大きく増加する傾向で、更に駕与丁公園の無料利用の継続から更なる魅力向上を図る期待が寄せられている状況の中、カフェなどを設置する要望が課題。
概 要	（研修内容を簡略にまとめ、議員個人として粕屋町に必要又は参考になると思われる点について記載） 民間連携 Park－PFI の運用を活用した草津市の先進事例を視察し駕与丁公園の課題を克服出来るかが視察の焦点とした。 草津市の人口は粕屋町の約三倍の 14 万 1,926 人公園の周りには、高層の集合住宅が立ち並び多くの宿泊施設も見受けられた。 隣接する栗東市と草津市との連携した公園 PFI に至った理由は事業者から集客が見込める可能性が得られたことから実現に至り、官が協力しながら運営され、公園の敷地、景観、利用性を実際に視察したところ遊歩道的な公園作りから区間を段階的に拡張する工事を実施し将来は全長 7 km におよぶ長さの遊歩道を延伸させカフェテラスで食事が取れる商業施設を設け市民にとって身近に利用が出来る公園運営であると感じ利用者のニーズと利便性の高い商業エリアの利用と遊歩道を分けた運営に良いデザイン性と感じた。駕与丁公園は多くの樹木などの剪定が必要とされ視察先との比較したところ、剪定などのメンテナンスが軽減出来る公園作りと商業施設を活用したイベントを重視した公園作りであると感じた。 駕与丁公園が Park－PFI 化に移行した場合、事業者から集客が見込める可能性が得られる公園であるのか不透明で視察先を参考にした取り組みが事業者の採算ベースの損益分岐点の調査も必要と感じた。 例。スターバックスコーヒーの 1 年間の運営費は平均で 1 店舗当たり 7,500 万円の売り上げが必要。

質 疑 応 答	(研修での自身その他の質疑応答内容(要点)を記載) 1, 公園の維持管理費用を削減する為にネーミングライツの活用は検討されたのか。 回答:コンセプトに適さないと判断、身近な自然を強調 2, 事業収支、商圈調査について 回答:事業者は集客が見込めると判断
所 感	(研修で自身が感じたことや学んだことを、町にどのように活用できるかなどを記載) 町民との意見交換で駕与丁公園の魅力向上と更なる賑わいの創出にくつろぎのあるカフェテリアが必要と多くの意見があった、今回の視察から実現が可能か検証から政策提案に結び付けることが出来るか委員会での検討。